

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103012		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホーム オアシス香西		
所在地	香川県高松市檀紙町1452番地1		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/37/">http://www.kaigokensaku.jp/37/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成29年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・運営推進会議の方々や地域の方々のご協力により開催している、打ち込みうどんが好評を得ている。グループホームでの行事または、家族会に、ご家族様の参加も増えており、利用者様、ご家族様、職員とのコミュニケーションを図る良い機会となっている。新しい地域資源の発見に努め、それにより、利用者様個々の要望に沿ったケアを行っている。地域行事への参加も定着しており、地域の方々との交流も深まり、認知度も高まってきている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>閑静な住宅地の一角にあり、近隣の幼稚園の園児が散歩で訪れることがある。法人母体である内科医院は至近距離にあり、何かあれば夜間でも直ぐに対応してもらえることから入居者・職員ともに安心している。事業所はデイサービスの2階にあり、「和」と「洋」の2つのユニットがあり入居時に好みに合わせて選択することができる。ユニット間はスタッフルームを挟んで隣接し、お互いを行き来することもでき、テラスで合同でランチを楽しむことがある。委員会活動、内外研修等、充実しており職員の向上心がうかがえる。入居者・職員とも表情が明るく、グループホーム理念である「人間らしく、人生の最後まで生き生きと、やすらぎ 安心 いやし」に沿った支援を心がけている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、ユニット目標を設定し、会議や日常業務を通して、達成度及び改善点について話し合いを行い、毎朝申し送り時に理念を唱和する事で意識づけをし、実践に繋げている。	開設当初に作ったグループホーム独自の理念に沿って、各ユニットで半年ごとに目標を掲げ達成度をはかっている。理念は朝礼で唱和し、スタッフルームに掲示しているが、今後リビングにも掲示予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回広報誌を発行、運営推進会議の場で発表を行い、関係各所に配布している。また、事業所イベントへご招待や地域でのイベントへの参加を通じて、地域としての一員としての役割を担うよう努めている。	近隣に保育園があり祭や花見に出かけている。自治会に加入しており水路の掃除や地区の祭に職員が地域の一員として参加している。祭に参加する際にはグループホーム名の法被を着用し事業所名も知られているため、利用者と散歩していると気軽に声をかけてもらえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で認知症についての勉強会を開催することで理解を深め、また、地域の方々から相談を受けたり、必要時にはアドバイスも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内にて、現状報告を行い、出席者の方々より寄せられた意見やアドバイスの内容を全職員に周知し共有することで、サービス向上へ反映されるよう取り組んでいる。	会議には地元のコミュニティセンター・農業協同組合・市出張所・民生委員などが開設当初から出席し、2か月毎に運営状況・季節の課題などを話し合っている。運営推進会議出席者による「打ち込みうどん」の行事を開催している。議事録はファイリングし、誰でも見ることができるように掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所内イベントへご参加頂き、情報交換を行いつつ、必要時には相談にも応じて頂き、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	急を要しない課題は運営推進会議時に相談しているが、普段より電話で問い合わせは気軽にでき、関係性はできている。「認知症サポーター養成講座」開催時には講師として招き、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年数回、身体拘束廃止委員会を開催。また、研修や勉強会等で学んだ内容を、全職員で共有し、理解した上で、日々取り組んでいる。	3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催している。特に「スピーチロック」について検討し、事例をあげ正しい声のかけ方を学び、スタッフ全員で共有している。玄関の施錠などフィジカルロックは行っていない。社長が医師のためドラッグロックについて学ぶ機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内にて定期的に勉強会を開催し、内容を共有している。また、日々の暮らしの中で利用者様の状態や様子に変化がないか観察し、早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、研修等で得られた内容を共有し、必要時にいつでも適切に、支援出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問点については、その都度丁寧な説明を行っている。また、改定がある場合、説明を行い、ご理解・ご納得頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や定期的にアンケートを実施し、得られた意見を運営推進会議やグループホーム会議の場で話し合い、ケアプランや業務内容の改善に反映させている。	意見箱は玄関に設置しているが、直接口頭で聞き取ることが多い。得られた課題は2か月毎のグループホーム会議で話し合い、改善に努めている。毎年、入居者家族全員アンケートを行い、意見・要望を聞き取り運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やユニット内でのミーティング、申し送りノート活用に加え、日常の業務内にて出た意見に対しても、耳を傾け、柔軟な対応が出来るよう心掛けている。	主に管理者が職員の意見を聞いているが、毎週代表者の訪問もあり、その際にも直接職員の誰もが意見が言える環境ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見に耳を傾け、必要時には資格取得支援を通して、向上心を持って働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて計画的に参加し、得られた技術や知識については、会議の場で報告し内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設とのイベント交流を中心に、訪問時や来訪時に意見交換を図り、得られた内容を活かし、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にご本人様の言動や仕草より汲み取り、ご家族様より生活歴やご要望をお聞きした上でご本人様の安心を確保できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安点や疑問点をお聞きし、ご理解して納得していただけるよう丁寧な説明に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様等が現在必要としているニーズをつかみ、サービス内容に反映出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の言動や振る舞い等から、意向や要望を汲み取り、内容を活かすことで、暮らしを共にする者同士としての信頼関係が築けるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず近況報告を行っている。また、ご家族様より気軽に要望も話して頂ける雰囲気作りに努め、必要時には協力して頂ける信頼関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に近隣のカフェへ出かけたり、周辺を散歩することにより、馴染みの人からの面会の機会を作って頂き、交流が図れるように努めている。	テラスから街並みが見渡せ、眺めた際に「家に帰ってみたい」といった希望が出れば、一緒に出掛けるなど出来るだけ本人の希望が叶うよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士が過ごせるような配慮をし、孤立せず交流が図れる機会を作り、安定した相互関係が築けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時、相談や支援に努めている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時にお聞きした要望に加えて、日々の暮らしの中での言動や仕草、会話等で希望や意向を把握するように努め、ケアプランに反映している。	特に表情の変化を見逃さないようにしている。また、会話の中でポロッと出てきた言葉の中に希望・要望がある場合が多いので、聞き逃さずユニット会議で職員間で共有し、ケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やライフスタイルについて、日々の暮らしより汲み取り、反映出来るように努めている。また、ご家族様からもお聞きし、把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、カンファレンス等を通じて、現状の把握を行った上で、疑問点・改善点に関しては、その都度、職員間で意見交換を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの様子や振る舞い、モニタリングシートの活用を通じて、課題や改善点を抽出し、カンファレンスにて話し合い、現状に即したケアプランの作成に努めている。	モニタリングシートは独自の様式の検討を重ね作成し、担当制ではあるが担当者以外でも日勤時に毎日モニタリングできる方法をとっている。プラン変更時はケアマネージャーが記録や家族・職員から聞き取りをし、変更後はユニット会議で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録内に、日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況等を記録している。また、内容を職員間で共有し、改善点等は見直し、ケアプランに反映出来るように活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様からの要望をお聞きし取り入れた上で支援を行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、必要に応じて、他施設との情報交換も行うように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、その後の指示や説明を受けている。また、定期的な協力医院での受診も可能であり、訪問歯科も行っている。	週に1回嘱託医の往診があるが、希望により他の医療機関を受診することも可能である。内科以外は家族に通院支援を依頼している。近況については家族へ口頭で伝え、医師から家族を介して返答を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、情報交換を行い早期発見・早期対応に努めている。また、必要時には適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、ご本人様、ご家族様、病院関係者との話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については、入居時にご家族様にご説明している。また、状態変化に応じてご家族様の希望・要望を聞いた上で、医師、御家族様、職員で話し合いの場を設け一人ひとりのニーズに合った形での対応に努めている。	終末期・重度化については入居時に意向を確認しているが、時期を見て再度本人、家族の気持ちを再確認している。看取りも行っており、その時が近づいたときには勉強会をし、職員の不安の軽減をはかっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護職員より指導を受けたり、応急手当や初期対応に関するマニュアルを作成し、活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成。避難訓練を年2回行っており、夜間を想定した訓練も行っている。また、運営推進会議を通じて、必要時、協力を得られるように働きかけをしている。	避難訓練により避難経路、手順の確認を行っている。日頃から近隣との関係性は良好で、有事には協力を得ることができる。備蓄は1階のデイサービスと合わせて、準備中である。	防災に関するマニュアルは作っているが、マニュアル内に情報が混在しており整備の必要性を感じる。近隣との良好な関係性を活用し、今後役割分担を決めるなど具体案に発展することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して寄り添い傾聴し笑顔で人格を尊重した形での声掛けや言葉使いを行っている。また、介助時の環境への配慮やプライバシーの確保に努めている。	身体拘束防止委員会でも声のかけ方には、特に注意し職員間で意識の統一をはかっている。管理者から職員に対し、一日一度は入居者一人ひとりの目を見て声をかけることを心がけるように意識づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活における雰囲気作りや相互の信頼関係の構築に努め、ご利用者様が自分の意思で決定出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活リズムを把握し、一人ひとりに合った暮らしの場を提供し、充実した生活を送って頂けるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みやご家族様の意向に応じて、個別に対応している。また、必要時、訪問理容・訪問美容等も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けの中で各利用者様に出来る範囲内で携わって頂き、食事中は会話を楽しみながら召し上がって頂いている。	昼・夕は同一法人事業所から、朝は委託業者から調理済み副食の配送があり盛り付け、主食の炊飯はユニット内で行っている。毎食、食事の感想を聞き取り給食委員会で話し合っている。気分を変えてテラスでランチを楽しんだり、希望の食材を追加で提供することもある。盛り付け・片付けなどは、能力に合わせて一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士の協力を得て、食事カロリーやバランスは確保出来ている。また、食事や水分量に関しては、個別に記録し状態に合わせて必要量摂取頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科の治療や口腔ケアを受けたり、毎食後の歯磨きの見守りや介助を行い、義歯・口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄習慣や間隔を把握し、出来る限りトイレでの排泄の支援を行っている。また、羞恥心やプライバシーへの配慮した声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表により、間隔を確認し声かけ誘導をしている。日中は全員がトイレでの排泄を目標にしている。オムツでの排泄からリハビリパンツ着用によりトイレで排泄可能になった入居者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、食事形態の工夫や適度の運動を働きかけ、便秘の予防に努め、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの生活習慣に合わせ、出来る限り希望通りの入浴を提供している。また、汚染時等の場合は清潔保持の観点から、柔軟に対応出来るよう努めている。	基本的には週2回の入浴である。ユニット内は個浴の一般浴だが、機械浴必要者や大浴場希望者は1階デイサービスでの入浴も可能である。決められた日時以外にも必要時・希望時に入浴可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、昼夜逆転にならない様、日中の活動量を増やし規則正しい生活リズムが確保出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録にお薬情報を添付し、ミーティング・カンファレンス等で内容を確認、看護職員に相談しながら支援している。また、定期的に医療機関へ報告し、見直しを検討して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等の軽作業や壁画や書道等の作品作り、趣味の園芸やカラオケ等に参加して頂くことによりご利用者様一人ひとりに役割を持って頂き気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や気候を考慮し、地域の方々の協力を得ながら、自立度関係なく全員が外出の機会を持ち、季節を感じることで気分転換が図れるように支援している。また、ご家族様の協力を得て、個別の外出や外食レクを開催している。	日常的に近隣への散歩に出かけている。個別の買い物希望や外出希望にもできるだけこたえるようにしている。入居者の希望を聞き取り、近隣カフェやミキサー対応のうどん店へ出かける機会をつくるなど、外出の機会は多い。季節ごとに花を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご利用者様には、いつでも必要な時に買い物出来るよう支援している。個人のお金は出納帳を作成し、ご家族様に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には手紙を書いて頂いたり、職員が代筆を行ったり、電話を利用出来るよう支援を行っている。また、ご家族様に連絡可能時間を確認した上で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目の行き届いた共有空間内で、快適でゆったりした空間を過ごして頂けるよう配慮し、季節の花を飾ったり書道や季節に応じた壁画の作品を掲示し、季節感を味わって頂けるよう工夫している。	明るく開放感のある「洋」、落ち着いた雰囲気「和」の二つのユニットがある。食卓の椅子以外にテレビの前のソファ、窓辺の椅子、マッサージチェア、座敷、テラスの椅子など好きな場所で過ごせる空間が作られている。壁画や花などで季節感が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内にいくつかのスペースを設け、ご利用者様が思い思いに好きな場所でプライベート空間を過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の要望を出来る限り反映し使い慣れた家具や生活用品を使用し、趣味の小物や写真等を置いて頂いている。また、安心感のある場所となるような環境整備にも努めている。	各部屋入口は暖簾やカフェカーテンで個性を出している。居室内はドレッサー、チェストなど馴染みの家具や写真・装飾品により、居心地の良い部屋ができています。姉妹での入居者へは夫婦部屋の提供によりプライバシーを守りつつ、行き来のできるよう配慮がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応のトイレや廊下・浴室等に手すりを設置し、一人ひとりに合わせた補助具の活用やまた、各トイレには、使用中の表示を利用者自身が変わえられるようにしており、活用されている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心をこめて精一杯」のユニット目標を掲げ、達成度について話し合いの場を持っている。また、申し送り時に、理念、ユニット目標の唱和を行ったり、職員個人の目標を持ち、意識の向上、実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回、事業所便りを作成し、ご家族様、地域の方に配布している。また、地域イベントへの積極的な参加、スーパーや飲食店、学校等の地域資源を利用する事で、地域の方々との交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で、認知症についての勉強会を開催し、認知症についての理解を深めると共に、地域の方から相談を受けた場合には、助言や説明を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて現状報告を行い、様々な意見や情報を頂けている。頂いた意見は、職員に、周知、共有する事により、事業所の運営に反映させる取り組みを行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、情報交換を行っている。また、必要時には、相談や質問をし、助言を頂いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、定期的な現状確認や、テーマに沿った議題にて勉強会や意見交換を行っている。委員会で話し合った内容は、職員間で周知、共有し、実践を行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行っている。また、日々の生活の中においても、観察し、職員間で意見交換や指摘をしあい、早期発見、防止に努めている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、必要に応じて活用出来る様、支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、内容について説明を行い、理解・納得を図り、同意を得ている。不安点・疑問点がある場合は、説明を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時や電話連絡時に、意見をお聞きしている。頂いた意見は、会議やミーティングにて話し合う場を設け、事業内容の改善に努めている。また、運営推進会議にて、報告し意見・助言を頂いている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や申し送りノート、各ユニットでのミーティングや連絡ノートの活用により、各職員から、意見や提案を聞き業務の円滑化を図っている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の意見・考えを聞き、向上心や、やりがいを持って働けるよう努めている。また、資格取得に向け職員個々に支援を行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、計画的に研修等に参加し、介護技術や知識を学び、全職員に会議やミーティング時に、伝達し、情報を共有している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設や相互訪問事業、研修等で知り合った施設との意見交換を行ったり、来訪・訪問時には、職員間での取り組み等の意見交換を行い、サービスの質の向上に向けての取り組みをしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、言動・仕草から要望を汲み取る。また、ご家族様から、生活歴や生活習慣を取得し、これまでの生活と大きな変化が生じず、安心してご利用して頂けるよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご家族様のおかれている状況を把握し、理解した上で、適切なサービスが導入出来る様、十分な相談時間を設けている。不安な事や質問に対し、納得し、安心して頂けるよう、丁寧な説明に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様との相談時に、一番何が必要かを見極め、要望をもとに、出来る限りの対応や提案に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が職員を家族の一員として気兼ねなく話せる関係性を築くことに努めている。日常生活の中で役割を持って頂き、互いに協力しあえる関係性を築くことに努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、必要時には電話で現状報告を行っている。ご家族様からの要望や気になる事は、気兼ねなく伝えて頂けるような関係作りに努め、必要に応じ、ご家族様の協力も得られるよう働きかけを行っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に馴染みの場所への外出を取り入れたり、馴染みのある方からの面会が継続して行えるよう、働きかけを行っている。ご家族様の面会時には、落ち着いてゆっくと会話が出来るような環境作りに努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者様同士の関係性を把握し、必要時には、職員が間に入ることで、利用者様同士が、交流できる機会を設け、良好な相互関係が継続出来るように支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、福祉用具や利用できるサービス等の相談や支援に努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様より意向をお聞きし、日常生活の中での言動にも重視する事により、内面的な希望・意向を汲み取ることが出来る様、努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣が継続出来る様、ご本人様やご家族様に生活歴をお聞きしたり、日々のコミュニケーションの中での情報収集を行う事で、把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、カンファレンス等で、利用者様一人ひとりの出来る事、出来ない事の見極めを行い、今出来る事が継続して行えるよう、職員同士で意見を出し合い、ご本人様の体調や気分に合わせて、無理の無いペースで生活出来るような支援に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が日常生活を送る中で、職員が気付いた事や、ご本人様、ご家族様の意向を基にカンファレンスを行い、個人の具体的な短期目標の設定や、ケアプランの立案となるよう努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の生活状況や健康状態等を記録し、職員全員が情報を共有している。個人記録をもとに、利用者様個々にあったケアの実践や介護計画の見直しに努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望に応じ、職員間で意見交換を行い、その時々に必要な支援を職員間、ご家族様との連携を図り柔軟な対応に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者や、学校・幼稚園等、双方間での交流を図っている。新しい地域資源の協力を得る事が出来るよう、職員間で意見交換を行っており、少しずつ地域の協力施設が増えてきている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される医療機関等の受診の際には、必要な情報提供を行い、受診後の指示や説明を受けている。また、協力医院での受診や定期的な往診も可能となっている。希望される方には、歯科医師・歯科衛生士による訪問受診も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の状態観察、記録等を基に情報交換を行い、助言を頂いたり、病気の早期発見、早期対応に努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院関係者、ご本人様、ご家族様と話し合い、必要時には情報交換を行い、支援に努めている。柔軟に対応出来る体制作りを心掛けている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については、入居時にご家族様に説明し同意を得ている。状態変化に応じて、医師、ご家族様、職員での話し合いの場を設け、ご家族様の希望や要望を聞き入れながら、チームとしてどこまで対応できるかを見極め、出来る限り個々のニーズに沿った対応に努めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護職員から指導を受けたり、応急手当や特変時のマニュアルを作成し、活用している。AEDの使用法の講習会も開催しており、迅速な初期対応の実践に備えている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定しての訓練を行っており、近隣職員順の連絡網も作成している。また、運営推進会議を通じ、地域の方々の参加・協力も呼び掛けている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、寄り添い、話を傾聴し、笑顔で無理強いの無い言葉かけや、個人のプライバシーの確保に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを気兼ねなく言える関係性の構築や雰囲気作りに努め、日常生活の中の何気ない言葉の中にある利用者様の思いや希望を汲み取り、利用者様自身が、自分の意思で動作・決定が出来る様に努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その方らしい生活が送れる様に暮らしの場を提供し、日常の中で力が発揮でき、充実した生活が送れるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人やご家族様の希望・意向に応じ、訪問理容や地域の理髪店の利用を個別に支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けの中で出来る事での関わりを持って頂き、食事の際は気の合う利用者様同士、または職員と共に会話をしながら楽しく食事をして頂いている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士の協力を得て、食事カロリー・バランスは確保できている。また、食事量・水分量については個別に記録し、把握出来るようにし、利用者様個々に食事量・食事形態の調整を行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ・見守り介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的な訪問歯科の利用により専門的な口腔ケアや口腔環境の確認を行い、助言を頂いている。義歯を使用されている方は、夜間に義歯洗浄を行っており清潔保持に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、利用者様の羞恥心や自尊心を傷つけないような声掛けにて誘導を行いトイレでの排泄が継続して行えるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の体質や状態に合わせ、乳製品の提供や食事形態の工夫や適度な運動を働きかけ便秘予防に努め、自然排便を促せるよう取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣に合わせ、入浴出来るよう支援している。入浴時には、入浴補助具を使用し、利用者様が安全に楽に入浴が出来るよう努めている。ご本人様の体調を考慮し、無理強いのない声掛けを行い、希望に沿った支援にて清潔保持に努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のその時々体調に合わせ、休息時間の確保や、夜間には、まとまった睡眠がとれる様に、生活リズムの調整、睡眠時には、空調管理を行い、ゆっくりと休める環境の確保を行っている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に、服薬中の薬の情報を貼付しており、職員間で目的や副作用の確認を行っている。医師・看護職員に相談し、指示を仰ぎながら支援している。医療機関・薬局と連携を図り症状・状態について、定期的に報告・相談を行っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・洗い物等のお手伝いや、習字・壁画作り等の作品作り、個人の趣味を通じ、無理なく力を発揮する事が出来、楽しみや達成感を感じて頂けるような場面の提供を心掛けている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に考慮し、地域の方々の協力を得ることで、利用者様全員が外出の機会を持ち、季節を感じて頂けるよう支援している。また、ご家族様の協力を得て、個別に外出・外食の機会を持っている。天候の良い時には、施設近隣を散歩する等の支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様希望にて、いつでも買い物が出来るよう支援している。お小遣い出納帳を作成し、ご家族様に提示・確認して頂き理解を得ている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には手紙を書いて頂いたり、筆記の出来ない方は、職員が代筆を行っている。また、ご家族様に連絡可能時間を確認し、必要時や希望時には電話を利用して頂けるよう支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者様の作品や写真を展示する等工夫している。ゆったりとした時間が過ごせるようにソファの間等の落ち着ける場所を作り、空調管理にて室温調整に気を付けている。利用者様が利用しやすいように、配置を考慮し状況に合わせ柔軟な対応している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはいくつかのスペースを設けており、利用者様が思い思いに気の合った利用者様と過ごす事が出来るように工夫している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様・ご家族様の意向を出来る限り反映し、使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物等を置き、安心して穏やかに生活が送れるように環境整備に努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応トイレや廊下、浴室等に手すりを設置している。個々に適した補助具の使用や、安全に移動出来るよう、動線の確保を行っている。また、トイレの場所が分かるよう、大きな字での案内書きをしたり、使用中であるかどうかの確認表示を設置している。